

携帯電話をメール転送で使う

大久保 正彦 <ohkubo@rie.h.kobe-u.ac.jp>

総合人間科学研究科 人間環境科学専攻 蛭名研究室

はじめに

コンビニにならぶ出会い系の雑誌には，“メル友募集”ともう当たり前に書かれていて，自身の顔写真と一言メッセージ，そして携帯電話のメールアドレスが掲載されている。

一日が終わった安心感を，どこかの人のに向けて（それは実世界の友人かもしれないし，未だ顔をあわせたことのない人かもしれない），短いながらも工夫した文面で帰宅中に伝えあったりもする。

日常の小さなツールとして携帯電話は一般に溶け込み，氾濫してきた¹。

これを「メールする」一種の通信端末と見なし，そのメリットを考えると次のようなものになるうか。

1. 端末の特性として

- ・ 小型軽量でどこにでも持ち歩ける
- ・ 購入価格と維持費が生活圏内にある
- ・ 共有使用もあり得る PC と違い，ほぼ完全に個人で使う

2. メールゆえの特性として

- ・ 距離や時間帯を問わない素早いメッセージ交換が行える
- ・ 相手を通話で束縛しない
- ・ 音声通話を控えるべき場所でもメール送受信は無音

本記事²の目的は，「普段やりとりするインターネットメールを携帯電話に転送して受信したときに，上記のメリットをいくらか享受できる術を紹介すること」とした。各通信事業者のメールサービスの解説を述べ，次に，メール転送に用いるいくつかの方法について簡潔に紹介する。

各通信事業者のメールサービス

各通信事業者が提供しているメールサービスを，表-1 にまとめてみた。なお，メールを利用する何らかの契約（メールサービスの契約）を行っていない携帯電話の場合，メールの利用はできないことに注意しよう。

メールサービスの使い勝手は，インターフェースである携帯電話そのものの操作性にも著しく左右さ

れる。これについては、各事業者のショップで実機に触れたり、雑誌や知人から評判を仕入れるなどして、自らが判断する必要がある。

表-1: メールサービスの一覧 (関西編)

	メールサービス名	文字数 (送/受)	課金	メールアドレスの形式	通信事業者名
携帯	iモードメール	250/250	従量	ANY@docomo.ne.jp	NTT ドコモ関西
	J-スカイ ロングメール	6000/6000	通数	ANY@jp-k.ne.jp	J-PHONE 関西
	スカイメール E メール	128/384	通数		
	EZweb	255/4000	従量	ANY@?.ezweb.ne.jp	関西セルラー
			時間		ツーカーホン関西
	スカイメッセージ E メール	128/384	通数	ANY@sky.tkk.ne.jp NAME@?.sky.tkk.ne.jp	
PHS	パルディオ E メール	3000/3000	時間	NUM@em.nttpnet.ne.jp NAME@mb2.em.nttpnet.ne.jp	NTT ドコモ関西
	H"LINK E メール	2000/5000	時間	NAME@pdx.ne.jp	DDI ポケット
	MOZIO e メール	1024/100000	時間	NAME1@phone.ne.jp NAME2@?.mozio.ne.jp	アステル関西

送受信文字数: 半角文字に換算したときのおおよその最大値

メールアドレス: NUM = 携帯電話の番号, NAME = ユーザが選ぶ名前, ANY = その両方

次に、メールサービスの各要素について一般的な説明を加えていく。

インターネットメールを受信可能なメールサービスならばどれでも、メールを転送する宛先になりうるわけだが、実際には若干の向き・不向きが出てくる。以下の を付けたものが、メール転送に向いていると思われる各方式である。

送受信文字数

送受信できる文字数は多いほうがよい。たとえばインターネットメールの単純な(無加工)転送をするならば、携帯電話で受信したものがメールの冒頭部分だけで文意が読めない、といった不便を軽減することができる。

なお、後述するメール転送の工夫により文字数制限を緩和することもできるので、ある一定程度以上の受信文字数を競うことはもうあまり重要ではなくなった、といった見方もある。

課金の方式

メールサービスという付加サービスを利用するためには、まず月額使用料として定額(数百円)を通信事業者に支払う契約をし、そして、メール送受信をきっかけとした課金が行なわれるのが一般的だ。

- ・従量課金()

通信のデータ量にしたがって課金が行われる方式で、データ伝送の形態からパケット課金とも呼ばれる。メール送受信においてはいわば文字数に課金されるようなもので、体感にともなう。

- ・通数課金

送受信したメールの通数にしたがって課金が行われる方式。メールの長さでは差が生まれない。

- ・時間課金

通信が回線を占めている時間にしたがって課金が行われる方式。通常の音声通話と同等の方式である。多少大まかな課金の時間単位(たとえば30秒)のうちに、メールをある一定量以上、一括で送受信するならばメリットがあるだろう。

メール再配送の方式

電波圏外にいたり電源を切っていた時には、携帯電話までメールを届けることができない。通信事業者のメールサーバは、何らかのタイミングで再配送を行うことになる。

- ・自動リトライ()

ある時間間隔をあけて、通信事業者のサーバが再配送を自動で行ってくれる方式。ユーザにとっては楽で、まさにメールが「降ってくる」という感覚を失わない。

- ・手動リトライ

ユーザ自身が操作をして、通信事業者のサーバにメールの問い合わせを行う必要がある方式。この手間が軽減されるように、携帯電話自体の機能として、ある一定間隔でサーバに自動で問い合わせを行うものもある。

メール保存の方式

携帯電話のメールサービスにも、ちょうどPOP3とIMAP4に対応するような違いがあり、これが「いつでもどこでも」メールが読める利便性に少なからず関係してくる。それぞれに一長一短な部分があるので、両者歩み寄った改善が今後進んでいくだろう。

- ・端末保存()

受信したメールは携帯電話に取り込まれ(ダウンロードされ)、保存される方式。メールの保存容量、フォルダによる整理性などには、携帯電話それぞれの仕様による違いが生まれる。

- ・サーバ保存

通信事業者のサーバアプリケーションとしてメール機能が提供され、メールはサーバに保存される方式。電波圏内で、携帯電話がオンライン状態になっていないとメールが参照できない。

なお、各通信事業者のウェブページは表-2の通りである。サービスの最新状況を知るためには、それぞれのページをぜひ調べてみてほしい。

表-2：各通信事業者のページ URL 一覧 (関西編)

通信事業者名	URL
NTT ドコモ関西	http://www.docomo-kansai.co.jp/
J-PHONE 関西	http://www.j-phone-kansai.com/
関西セルラー / au	http://www.kansai-cellular.co.jp/
ツーカーホン関西	http://www.tu-ka-kansai.co.jp/
DDI ポケット	http://www.ddipocket.co.jp/
アステル関西	http://www.astelkansai.co.jp/
KDDI (DDI, KDD, IDO)	http://www.kddi.com/

メールを転送する

普段やりとりしているインターネットメールを電波にのせて転送し、携帯電話で読むことにしよう。その感覚は、メールのための専用線を手のひらに持ったようなものである。

メールをそのまま携帯電話に転送すると、覗き窓のような小さな画面では文意がつかみづらい、といった不具合が起こる。また、意図しないメールを読み出す手間や無駄な課金も発生するだろう。そこで、このような処理を施すことはまず必然となる。

- ・メールのフィルタリング処理 (必要のないメールは転送しない)
- ・メール文面の圧縮処理 (文意を変えない程度にできるだけ省く)

その他、携帯電話のメールの文字数制限を超越するための分割転送処理など、さまざまな付加価値が考えられ、有償や無償で提供されている。以下に代表的なものを並べる。

方法-1 メール転送サービス経由で転送

ユーザはまず自分の環境のメール転送設定を変え、メール転送サービスにメールを宛てる。それが携帯電話向けに処理され、ユーザの携帯電話に転送されるという方法。フィルタリング処理など、メール転送サービス側の設定は一般にブラウザで行うことができ、簡単であることから、一般にはおそらく最も使われている方法だろう。

- ・ EmCm Service <<http://radio.mtc.co.jp/>>
- ・ e-shot <<http://www.e-shot.ne.jp/>>

方法-2 PC 経由でメールを再送

インターネット接続された PC にメール転送用のソフトウェアを常時起動しておく。そのソフトウェアはユーザのメールサーバから一定間隔でメールを取得して、携帯電話向けに転送処理をするという方法。ユーザのメールサーバの転送設定を変更する必要がなく、PC が一台あればコトが足りる。これからより進んでいけよう分散処理の傾向と常時接続環境の普及を思えば、今後のメール転送の主流の一つになるのではないかと予想する。

- ・ iAgent <<http://www.vector.co.jp/soft/win95/net/se115580.html>>
- ・ 携帯 mate <<http://maple.cup.com/software.html#mta>>
- ・ Forward Mail <http://hp.vector.co.jp/authors/VA009014/page02/freew_fwdmail.htm>

方法-3 ウェブメールサービス経由で閲覧

ウェブメールサービス側がユーザのメールサーバからメールを取得し、ウェブ上に展開する方法。ユーザはそれを携帯電話のブラウザを使って閲覧・操作する。インターネット接続できる携帯電話の大御所“iモード”は、メールの文字数制限よりウェブのバイト数制限のほうが緩いため(過去形になるか?)、この方法が広く使われるようになったのかもしれない。

- ・ MoCo メール <<http://www.moco.ne.jp/>>
- ・ 通勤ブラウザ <<http://www.sjk.co.jp/>>
- ・ リモートメール <<http://rmail.netvillage.co.jp/>>

方法-4 サーバ経由でメールを転送

ユーザのメールサーバの中で、メールを携帯電話向けに処理して転送する方法。または、専用のソフトウェアを導入したメール転送サーバを新たに導入して、携帯電話向けの転送をさせるものもある。特に後者は大がかりなものになるが、学校や職場など、大人数で利用する場合に向いていると思われる。

- ・ i-modeGate <<http://www.i-modegate.net/>>
- ・ FlexMessenger <<http://www.do-it.co.jp/flex/>>
- ・ 実用すくりぷとん <<http://rie.h.kobe-u.ac.jp/~ohkubo/script.shtml>>

おわりに

以上、携帯電話へのメール転送を念頭においた、各通信事業者のメールサービスの各要素の説明、具体的なメール転送方法の紹介を簡単ながら行ってきた。これを参考にした実践で、携帯電話をメール転送で使うことのメリット(とデメリット)を各人に感じてもらえれば幸いに思う。

これから先の携帯電話は、クロスメディアをサポートする一つのツールとなり、僕らはメールに代表される“文字”だけではなく、映像や音声なども携帯電話向けにどこかで加工処理して、転送してしまうような気がしてならない。

-
1. 携帯電話の最新の契約数は、社団法人電気通信事業者協会 (TCA) のページ <<http://www.tca.or.jp/>> に詳しい。これによると、インターネット接続できる携帯電話は 2000 年 7 月末の時点で 1,500 万台を超えていた。
 2. 本記事は 2000 年 8 月に執筆された。本誌発行時にはまた、携帯電話の業界や社会の状況は著しく変化していると思われる。その変化を楽しむ (懐かしむ) のも一興だろう。